

行政評価シート(事後評価)

コード 9-2-6	事務事業名 諸行事運営事業(周年行事)	所管部課 教育部学校運営課
--------------	------------------------	------------------

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	先人が残した良き校風・伝統を継承し、新たな伝統を築き上げる心を養う。また、学校生活に有意義な変化や折目をつけ、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活への動機付けとする。	<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等 / 補助の概要: 補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等	
	10年の節目ごとに小中学校の該当校が実施している。教職員、児童の参加のもと来賓を招いた記念式典を行うとともに、記念誌、記念品を作成し配布する。 予算額は、一校約1,000,000円であり、記念品は児童・生徒一人当たり570円、その他、盛花、印刷代等となっている。	
事業開始時期	合併前から 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ( )

事業費データ	項目	単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	事業費(A)			895	3,158	2,635
財源	国庫支出金・都支出金	千円				
	地方債					
内訳	その他( )					
	一般財源		895	3,158	2,635	5,071
所要人員(B)	人		0.01	0.01	0.01	0.01
人件費(C)=平均給与×(B)	千円		82	82	82	82
臨時職員等賃金(C')	千円		0	0	0	
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円		977	3,240	2,717	5,153
単位当たりコスト						
(E)=(D)/( 周年行事該当校 )	千円		977	1,080	906	1,031

評価指標の設定	活動等指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度
	周年行事該当校	実績値	校	1	3	3	5
		実績値					
	(指標の説明・数値変化の理由 など)						
成果指標		単位	17年度	18年度	19年度	20年度	
一 次	目標値	人	585	2,224	2,038	3,493	
	実績値	人	585	2,224	2,038	3,493	
二 次	目標値						
	実績値						
(指標の説明・数値変化の理由 など)							

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	特になし	
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下	今後、他市の実施状況を把握する。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	特になし

コード 9-2-6	事務事業名 諸行事運営事業(周年行事)	所管部課 教育部学校運営課
--------------	------------------------	------------------

### 【一次評価】

検証項目	ランク		一次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
事業の優先度(緊急性)	1		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>平成18・19年度は実施校が3校であったため、事業費・参加人数とも17年度より多かった。10周年の節目ごとに実施する予定になっているが、実施するか否かは学校判断に任せられている。記念品の配布や、実施回数など、実施形態を見直し、手法等の検討を図っていく。</p>
事業の必要性	2			
事業主体の妥当性	2			
直接のサービスの相手方	1			
事業内容等の適切さ	2			
受益者負担の適切さ	1			
市民ニーズの把握	1			

### 【二次評価】

検証項目	ランク		二次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
事業の優先度(緊急性)	1		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>記念事業の開催は、各校の判断に委ねられているが、10年を節目として実施する場合、学校数から、ほぼ毎年、いずれかの学校で記念事業が実施されるものと推測できる。事業費が、主に記念品や記念誌に充当されていることを考えると、この年に在籍していた特定の児童生徒にのみ、還元される事業とも受け取れる。</p> <p>事業を全面的に否定するものではないが、例えば、記念植樹や記念備品購入など、将来にわたって記念になり、かつ、広く在校生が共用できる費用への充当の検討など、事業の再構築が必要である。</p>
事業の必要性	2			
事業主体の妥当性	2			
直接のサービスの相手方	1			
事業内容等の適切さ	1			
受益者負担の適切さ	1			
市民ニーズの把握	1			

### 【行革本部評価】

行革本部評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>校風・伝統の尊重や学校生活に変化を与えるといった観点から、一定の意義は認められる。一方で、これまでの実態として、記念品や記念誌の作成など、周年行事実施年に在籍していた特定の児童生徒にのみ恩恵がある行事となっていることから、より広い範囲の児童生徒が対象となり、長期間にわたって効果のある事業とするために、行事の内容についての見直しが必要である。</p>